山宮神社春祭に伴う芸能（田打，カギヒキ，正月踊）

【所　在　地】鹿屋市串良町細山田（山宮神社春祭に伴う芸能保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 37 年 10 月 24 日

春祭は旧正月 23 日であったが現在は２月の第３日曜日に行われる。祭の中で細山田内の集落（堂園，生栗巣，馬掛など）から棒踊が奉納される。この中でも馬掛集落の棒踊は踊り手が紫の布で覆面をすること，踊の先払いにタカビ（高幣）という鉾状のものがつき，踊りの後山といって歌い手がシイの枝を立て回した中から歌うなどの特徴がある。

カギヒキは踊のあとで行われるが榎・桜の木などの巨木を山から切り出し，神社の座元の堂園集落などでは女カギ，生栗須集落などは男カギを用意する。女カギの木の股に男カギのカギ枝をひっかけてそれぞれ氏子達がにぎやかに引き合い，３回勝負する。勝った方が豊作になるという。（カギヒキは農耕の田打ちにあたるともいう。）

カギヒキが終ると，太郎・次郎が模型の牛にワタイモガ（木製馬鍬）を引かせて田をならす動作をし，神主がその上に籾種とニワトコの若芽を束ねたものを蒔いて祭が終る。

南九州におけるカギヒキ神事の代表として古形を保っているものである。